

令和6年度

教科書調査研究報告書

中学校

英語

富士地区教科用図書採択連絡協議会  
富士地区教科書研究委員会

## I 調査研究対象教科書

発行者	書名	学年
2 東京書籍	NEW HORIZON English Course	1～3年
9 開隆堂出版	Sunshine English Course	1～3年
15 三省堂	NEW CROWN English Series	1～3年
17 教育出版	ONE WORLD English Course	1～3年
38 光村図書出版	Here We Go! ENGLISH COURSE	1～3年
61 新興出版社啓林館	BLUE SKY English Course	1～3年

## II 調査研究の観点

### 1 内容

- (1) 「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を設定できる教材として、どのように工夫されているか。
- (2) 「英語を用いて何ができるようになるか」という視点をふまえ、言語材料を実際のコミュニケーションにおいて活用するために、どのように工夫されているか。(実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材となっているか。)
- (3) 世界中の人々の日常生活、風俗習慣、伝統文化、多様性等についてや、教科等横断的な視点を踏まえた内容について考えることができ、生徒の興味関心に即したものになっているか。

### 2 組織・配列・分量

- (1) 系統的・発展的に学習を進めるために、どのように工夫されているか。
- (2) 外国語に対する興味・関心を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図るために、どのように工夫されているか。

### 3 生徒の発達の段階への配慮

- (1) 生徒の発達の段階や習熟の程度に応じた題材やその取扱いが、どのように工夫されているか。
- (2) 生徒の生活体験や興味・関心に応じるために、どのような配慮や工夫がされているか。

## 別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略称		
2 東書	NEW HORIZON English Course	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>(1) 異文化理解を深める題材、環境や平和などの世界的問題、プレゼンテーション力の向上について学ぶ題材など、グローバルな話題や今日的課題が多く取り上げられており、教科横断的な学びが期待できる。2年生のUnit7では、富士山が題材となっている。富士・富士宮地区の生徒にとって非常に身近な話題であり、総合的な学習の学びを生かして、自己表現につなげることができる。</p> <p>(2) 小中の接続を重視し、1年生の前半では小学校での既習事項を活用しながら内容を理解したり、コミュニケーション活動を行ったりできる配列となっている。</p> <p>(3) 「ダイバーシティメモ」や「コラム」は、様々な言語や文化に対する理解を深めることができ、多様性が尊重される現代社会に即した大変重要な内容となっている。</p> <hr/> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <p>(1) 1年生のUnit1からUnit3まで、本文の語彙数を一定に保つことで、時間をかけて中学校英語に慣れていけるよう工夫されている。小学校との接続を意識しており、1年生の最初から語彙数も文法事項も少しレベルは高いが、その分、より一層日常生活に密着した使える英語になっている。</p> <p>(2) 全学年共通して Preview では、単元導入時のアニメーション動画が視聴でき、生徒の興味・関心を引き付けるよい動機付けとなる。さらに、英語使用場面の「目的・場面・状況」が明確になるため、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>(3) 各PartのPractice ③やRead and ThinkのRound 3では、それまでに身に付けた英文を活用して、身近なことについての紹介や話題に対する考えを表現できる活動となっている。</p> <hr/> <p>&lt;児童の発達段階への配慮(表現)&gt;</p> <p>(1) 発達段階に合わせた文字サイズやフォントを使用し、A4サイズで行間も広く、さらに、写真や絵が多いため、本文内容を視覚的にもイメージしやすい。文字を読むことが苦手な生徒にとっても主体的な学びを育むきっかけとなる。</p> <p>(2) 1年生巻末の語順カードは、英語の文法構造を理解する上で大変有効である。英語特有の語順を体験的に繰り返し学習することができる。</p>

		<p>(3) 巻末の Small Talk にある Expression List には、答え方の例も掲載されているため活用しやすく、継続して取り組むことで基礎基本から応用まで幅広く表現力を身に付けることができる。</p>
		<p>&lt;総評&gt;</p> <p>(1) Unit の各パートでの学びを Unit Activity で活用し、さらに、Stage Activity に向けて積み重ねるといのように、3年間を見通して系統立てた丁寧な構成になっている。常にゴールを意識した単元構想のもと、生徒は身に付いた力を自己評価し、学びの調整につなげていくことができる。</p> <p>(2) 単元のゴールが Unit の始めのページに分かりやすく表記されているため、身に付けたい資質・能力を常に意識しながら学びを積み重ねていくことができる。また、単元での学びを生かした Unit Activity が用意されており、積極的に英語を使う場面がある。</p> <p>(3) デジタルコンテンツが非常に充実しており、様々な音声機能や文法クイズ、文法解説動画などを活用することで、個別最適な学習環境が保証される。また、音声や動画、練習問題を自己選択して学習を進めることは、自律的学習者の育成にもつながる。</p>

## 別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
9 開隆堂	Sunshine English Course	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>(1) 様々な国、文化、食、環境、国際的課題等、多岐にわたる題材があり、時代のニーズにも合致している。そのため、グローバルな視野を身に付けたり、道徳的価値や教科横断的な学びを深めたりすることができる。また、1年生の PROGRAM 5 “Pajama Day” や3年生の PROGRAM 2 “Good Night. Sleep Tight.” に代表されるような他社にはない話題もあり、生徒が興味・関心をもって授業に取り組める。</p> <p>(2) 各領域を示すアイコンや音読チェックリスト、各 Part の自己評価マークや学びのプロセスを示すインデックスが表示されており、身についた資質・能力を生徒自身が確認できる。また、巻末の CAN-DO リストの表記も分かりやすく、学習内容の振り返りにも生かせる。</p> <p>(3) 各学年3回ずつ設置されている Our Project では、自己紹介、他者紹介、Show&amp;Tell、ポスターセッション、ディスカッションなど様々な統合的パフォーマンス活動が用意され、発達段階に応じて表現力を高められる構成となっている。生徒の思考を整理するマッピングもあり、教科書のモデルと比較しながら自然に自己表現できる構成となっている。</p> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <p>(1) 1年生では、小中のつながりを意識した Get Ready が準備されており、コミュニケーションを中心としながら小学校での学びを効果的に復習できる。英語に対する苦手意識がある生徒でも、自信をもって取り組むことができる。</p> <p>(2) Program 導入時の Scenes では、身近な場面に置き換えて新文法を学習できる。全学年共通で Program の内容ともリンクされているため分かりやすい。また、各 Program の終盤には Action のページが設定され、単元で学習した内容を中心に4技能5領域を効果的に組み合わせると言語活動が行える。そのため、これらの技能をバランスよく習得できると思われる。</p> <p>(3) 語彙や表現を広げられる Words Web、自分の言葉で再現する Review&amp;Retell、文法のまとめとしての「英語早わかり」など、自律的な学習者を育てるための配慮がある。</p>

		<p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <p>(1) 単元導入時の「とびら」のイラストにより、目的、場面、状況をイメージしやすくなっており、また、1 ページに掲載されている英文が適量で、文字が大きく、行間も広くとられているため、どの生徒にとっても読みやすくなっている。</p> <p>(2) 本文や長文は、多種多様な視点から構成されているため、教科書を通して、多様なものの見方や考え方が養えると考えられる。</p> <p>(3) Scenes の新出表現の色分け、単元終盤の「英語早わかり」や「Q&amp;A」など、単元全体を通して、生徒自身が理解度を確認できる工夫がされている。</p> <p>(4) Our Project は、モデル分析→構想→リハーサル→本番→振り返りという活動の流れが全学年共通で示されており、生徒が見通しを持って活動できる。また、4 技能 5 領域を統合的に活用し、英語で表現する楽しさを実感できる。</p> <hr/> <p>&lt;総評&gt;</p> <p>(1) 4 技能 5 領域を意識した活動が発達段階に応じて取り入れられ、徐々に難易度を上げ、最終的に自分の言葉として発信できるような内容・構成になっている。そのため、生徒はスパイラル的に学習を進めることができる。</p> <p>(2) 下部ページ横に設定された Small Talk を継続することで、やりとりする力や即興的コミュニケーション力が養われると思われる。また、単元末の Review &amp; Retell や Action に既習事項を用いて表現することで、英語力の向上を実感したり、学びの自己調整に生かしながら、学習意欲をさらに高めたりすることが期待できる。</p>
--	--	---

## 別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略称		
15 三省堂	NEW CROWN	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>(1) 防災と安全、環境問題・社会問題、自然や平和の大切さや伝統文化とそれに携わる人々への理解など、多岐にわたる内容であり、わかりやすく英文にまとめられている</p> <p>(2) イラストや写真が大きく明瞭で、ユニバーサルデザインの配慮もあり、生徒の学習意欲への喚起につながる。</p> <p>(3) 1年生の Language Focus 5 や2年生の Language Focus 7 に見られるように、生徒にとって身近な場面を使用して、文法事項や文構造を習得しやすい工夫が教科書全体でなされている。</p> <p>(4) 授業者が英文の補助資料を準備して学習内容を深めたり、パフォーマンス課題を設定したりするなど、生徒の実態に合わせて年間計画や単元構想を工夫できる。</p> <hr/> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <p>(1) 文字の大きさ、行間の幅も適切であり、英文も短くまとめられているため、どの生徒にとっても読みやすいと考えられる。また、確認問題によってさらに理解が深まると考えられる。</p> <p>(2) 単元末活動が必ず用意されており、4技能5領域の活動バランスが工夫されている。</p> <p>(3) 単元の終盤に設定された Goal Activity や年間3回の Project 活動（パフォーマンス課題）の内容がよい。課題を自分事としてとらえ、生徒が思いを伝え合ったり、改善し合ったりするなど、主体的に学習することが期待できる。</p> <p>(4) Goal Activity で学習内容のまとめと活用ができる。また、Language Focus は挿絵がわかりやすく、構成もよい。英語を苦手としている生徒も取り組みやすいと感じる。</p> <hr/> <p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <p>(1) 小学校で学んだ語句や表現を教科書の始めに My Dictionary として掲載されているため、生徒の目に留まりやすく、会話活動などで使用しやすい。</p> <p>(2) コミック風のイラストやマンガ形式の人物表現により、生徒が英文の内容をイメージしやすく、学習意欲の喚起につながる。</p> <p>(3) 1年生では、英文量や単語数を精選しているため、小学校までの既習事項に繰り返し触れながら、キーセンテンスを中心にコミュニケーション活動を行うことが期待できる。</p>

		<p>&lt;総評&gt;</p> <p>(1) 単元の導入段階で、目標に加え単元末活動の内容を示しており、生徒は身に付けたい資質・能力を意識し、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>(2) 各単元のPartは、small talkからはじまり、Listen, Read, Speak (Talk) &amp; Write の活動が盛り込まれるなど、常に4技能5領域が意識されている。それぞれの活動にはヒントとなる補助的な説明があり、個々の能力や必要性に応じて活用できる。1年生のStarterやMy Dictionary、そして、全学年にある「資料」は基礎・基本の定着と豊かな表現をめざす上で有効活用できる。</p>

## 別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略称		
17 教出	ONE WORLD	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>(1) 学校生活や家庭生活の対話活動を中心とした身近な話題から、地域、国内、海外へと、徐々に視野が世界に広がっていく。また、職業体験、ジェスチャーと手話、ゴミ出し方法などの題材が扱われており、学習後に自分事として思いや考えを発信する活動にもつながられる。</p> <p>(2) 各単元の巻頭には内容に関連した人物や自然に関する多様な写真があり生徒の「見たい」「知りたい」「行ってみたい」という興味・関心を引き、学習意欲を高められる。</p> <p>(3) 単元末の Activity Plus では、既習事項の確認に加え、授業導入時の帯活動として継続して活用することで定着につながる。</p> <hr/> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <p>(1) 各単元では、Part1、2 の本文を短めにして、「読む・聞く・書く」の活動から基本本文の定着を図り、Part3 では長めの本文で「読む・聞く」を通して、より深い学習と自分の思いを発信する単元構成となっている。</p> <p>(2) 各単元の後半に読解を取り入れ、単元末の Task では四技能をバランスよく学習できるよう構成されている。特に、中学生にとって苦手意識が高い「書くこと」は全 Task で取り入れているため、トレーニング的な効果を期待できる。</p> <hr/> <p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <p>(1) Task（練習）や Activity のページには、中心となる技能を活動アイコンとして表示しており、生徒自身が身に付けたい資質・能力を意識して学習に取り組むことができる。</p> <p>(2) Tips のページには、4 技能 5 領域の学習のコツが具体的に表記されているため自学自習の参考となり、自律的な学習者の育成につながる。</p> <hr/> <p>&lt;総評&gt;</p> <p>(1) 他教科、領域とのつながりのある題材を多くの単元で取り上げており、SDGs の観点からも教科横断的な学習ができる。また、生活、職業、文化、環境など同じテーマでも発達段階に応じて内容の深まりがあり、それらに伴って内容に関する生徒の思考力・判断力・表現力も強化できると考えられる。</p>

		<p>(2) 各学年の Project は、パフォーマンス課題として複数の技能を統合的に運用して学習に取り組む活動が設けられている。ICT も活用しながら個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ることが期待できる。</p> <p>(3) 1年次から様々な言語材料に触れることで多様な表現を可能にし、学年を追うに従って内容に広がりを持たせている。題材に関連した表現活動（話す、書く）を通して、スパイラルに学習を積み重ねていくことができる。</p>
--	--	---

## 別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略称		
38 光村	Here We Go	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>(1) 生徒の日常生活とリンクするリアルな話題、AI や平和学習、絵文字などの今日的題材など多岐にわたるテーマや人物が取り上げられており、自分事として考えやすく、様々な道徳的価値観にも触れながら学びを深めていくことができる。また、多様性の観点から、様々な立場の登場人物が取り上げられている点もよい。</p> <p>(2) 帯教材の Let' s Talk や Story Retelling に継続的に取り組むことで、発達段階に応じた即興性や自分の言葉で表現する力等が身につき、振り返りを通して学びの自己調整が可能となる。特に、Story Retelling では、イラストに加えキーワードやキーフレーズが常に紹介されているため、生徒の表現の幅を広げる支えとなる。</p> <p>(3) 各パートにある You' re the Writer! は、本文の続きを考える創作的な活動として有効である。協働的な学びを生み出すと共に、思考力・判断力・表現力を高めることができる。</p> <hr/> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <p>(1) Unit の内容には関連性や連続性（2年生：Unit3, 4、Unit5, 6、Unit7, 8、3年：Unit2, 3 等）があり、自然なストーリー展開となっている。生徒にとって一見身近ではないと思われる話題も、登場人物の背景に絡めて必要感が感じられる展開となっている。</p> <p>(2) 内容に合わせた、必要観のある場面設定で文法や重要表現が紹介されているため、生徒はそれらをスパイラル的に学習できる。</p> <p>(3) 巻末付録に掲載されている「英語の学び方ガイド」は、全学年共通した構成となっており、英語を体系的にとらえるために非常に効果的である。具体例が取り上げられているため、繰り返し確認することで自律的学習者の育成につながる。</p> <hr/> <p>&lt;児童の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <p>(1) 1年生の巻頭にある Let' s be friends は小学校との接続を意識しており、小学校で扱った内容を復習してから中学校の英語へ入ることができる。また、1年生の Unit3 まで漫画形式で本文が構成されており、英語に対する抵抗感が少なくなるよう工夫されている。</p> <p>(2) Active Grammar にある Grammar Hunt は、どの生徒も簡単に Unit の内容と既習文法の振り返りをすることができ、より定着度を高</p>

		<p>めることが期待できる。</p> <p>(3) 優しい色遣い、親しみやすいイラスト、話題にぴったり合った写真や配列など、全体的にデザインに工夫が見られる。</p>
		<p>&lt;総評&gt;</p> <p>(1) 全学年 Unit の内容が精選されており、一つひとつの Unit に対してじっくりと学習することができる。登場人物 4 人の成長のストーリーに、自身の姿を重ね合わせながら英語を楽しく学ぶことができる。</p> <p>(2) 単元の最後に設定されている Goal の活動は、目指すべき姿が分かりやすく、既習事項やヒントなどを複合的に活用しながら取り組むことができる。また、Let's Read や Let's Read More で取り上げられている内容が生徒の興味・関心を引き、道徳的学びや言語や文化についての学びが深まる題材である。</p> <p>(3) 帯教材や巻末付録が充実しており、4 技能 5 領域がバランスよく身に付けられる工夫があり、英語に興味を示す生徒が増えることが期待できる。</p>

## 別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
61 啓林館	BLUE SKY	<p>&lt;内容&gt;</p> <p>(1) 学校生活、日本文化、芸術、災害問題、海外など、多種多様な話題が取り入れられている。写真とイラストのバランスがよく、全体的にメディアユニバーサルデザインを意識した構成となっている。</p> <p>(2) 世界の様々な地域における今日的課題が題材として扱われている。また、気候や貧困問題をはじめとする、教科・領域での横断的な内容が多いため、様々な問題を自分事としてとらえ、同時にグローバルな視点に立って視野を広げることができるよう工夫されている。</p> <p>&lt;組織、配列、分量&gt;</p> <p>(1) 一つの単元が三つのパートで構成されており、それぞれのターゲットセンテンスがはっきりしている。さらに、Listen→ Speak → Write の順に配列されているため、スモールステップによる学習場面の設定が生徒の理解を深められる。一つの Part に複数技能の活動があり、さらに、単元末は、Read &amp; Think に加え Listen &amp; Think や Think &amp; Speak/Write の構成となっているため、4 技能 5 領域の学習効果が期待できる。</p> <p>(2) 各 unit の part ごとに聞く・話す・書く活動があり、毎時間少しずつバランスよく活動することで、Read &amp; Think や Think &amp; Write につながっていると感じられる。</p> <p>(3) 一つのパートの英文量は、中学生の英語力に適している。</p> <p>&lt;生徒の発達段階への配慮（表現）&gt;</p> <p>(1) 多くのパートが対話形式になっており、生徒は聞くこと、読むことを中心に話し手の立場や対話の内容を理解することから導入できる。また、短文が多いため、内容を理解しやすく、対話活動で自己表現に取り入れて活動することが可能と思われる。</p> <p>(2) 内容や文法事項を理解しやすくするために、配色・デザインの工夫が随所に見られる。</p> <p>(3) 書くことについては、各ユニットの量が多くないので、生徒の負担は少ない。発達段階や生徒の実態に合わせて、徐々に難易度を上げながら取り組むことで、project の活動につなげられる。</p>

		<p>(4) 各 Unit のゴールとして、Input と Output それぞれの目標が示されており、本文の理解を通して知識・技能の定着を図り、Express Yourself で自己表現の活動へとつなげることができる。</p>
		<p>&lt;総評&gt;</p> <p>(1) 各 Part に取り入れられている 4 技能 5 領域のバランスが取れている上、Express Yourself でさらなるステップ課題があるため文法や重要表現の定着を図ることができる。</p> <p>(2) Project は、既習事項を活用しながら自己表現をする統合的な課題である。Unit での input を通して自分の感想や考えを output しながら、段階的に表現力を高めることができる。</p>